

令和 8 年度事業計画

(2026 年 4 月 1 日－2027 年 3 月 31 日)

I. 定期学術集会・総会の開催

第 73 回日本実験動物学会総会を下記のとおり開催する。

会 期 : 令和 8 年 5 月 27 日 (水) ～29 日 (金)
会 場 : 沖縄コンベンションセンター (沖縄県宜野湾市)
会 長 : 鈴木 真 (沖縄科学技術大学院大学)
参加者 : 約 1,000 名を予定

II. 通常総会、理事会、理事評議員懇談会の開催

通常総会 (1 回)、理事会 (4 回)、理事評議員懇談会 (1 回) を開催する。

III. 定期刊行物の発行

機関誌「Experimental Animals」および「実験動物ニュース」は下記のとおり発行 (電子配信) する。

発行年月日	巻	号
2026 年 4 月 1 日	75	2
2026 年 7 月 1 日	75	3
2026 年 8 月 1 日	75	Supple (Proceedings of the 73 JALAS Conference)
2026 年 10 月 1 日	75	4
2027 年 1 月 1 日	76	1

IV. 研究の奨励、業績の表彰をする。

(1) 令和 8 年度学会賞受賞者を表彰する。

1) 功労賞

該当者なし

2) 安東・田嶋賞 (1 名)

高橋英機 会員 (九州大学)

「神経疾患モデルの深化とそれを支える飼育環境の最適化に関する研究」

3) 奨励賞 (2 名)

村田知弥 会員 (岐阜大学)

「生体内タンパク質相互作用解析を可能とするマウスモデルの開発と技術基盤の確立」

田中美有 会員 (大阪公立大学)

「*Hspa8* 遺伝子変異ラットの新規神経軸索ジストロフィーモデルとしての確立」

4) 2025 年 Experimental Animals 最優秀論文賞 (3 編)

○金子 結、保田昌彦、小牧裕司、小倉智幸、高橋利一、山本真史

Identification of gene mutations associated with the phenotype of short-limb mice emerging from a foundation colony of severely immunodeficient mice

「重度免疫不全マウスのコロニーから出現した短肢マウスの原因遺伝子の同定」

○中川達哉、江森千紘、伊川正人

Trophectoderm-specific gene manipulation using adeno-associated viral vectors

「アデノ随伴ウイルスベクターを用いた栄養外胚葉特異的遺伝子導入」

○浅井健宏、栃内亮太、水流功春、関口茉莉恵、南 篤、藤井 渉、久和 茂、小川哲弘、角田 茂

Loss of non-canonical translation initiation factors impairs perinatal cardiac function in mice

「非古典的翻訳開始因子の欠損によりマウスの周産期における 心臓機能が減弱する」

(2) 第 73 回日本実験動物学会総会・優秀発表賞の選考及び表彰を行う。

(3) 令和 9 年度の功労賞、安東・田嶋賞ならびに奨励賞の推薦受付、選考を行う。

(4) 2026 年 Experimental Animals 最優秀論文賞の選考を行う。

(5) 第 76 回日本実験動物学会総会大会長を選出する。

V. 委員会等の活動

下記の委員会を設置し、それぞれの目的に応じた活動を実施する。

- a. 編集委員会
- b. 学術集会委員会
- c. 財務特別委員会
- d. 国際交流委員会
- e. 広報・情報公開検討委員会
- f. 動物福祉・倫理委員会
- g. 定款・細則・規定等検討委員会
- h. 実験動物感染症対策委員会
- i. 教育研修委員会
- j. 実験動物管理者研修制度委員会
- k. 外部検証委員会

- l. 人材育成委員会
- m. 将来検討委員会
- n. 動愛法等対策委員会

VI. 動物実験に関する外部検証

「動物実験に関する外部検証事業」を外部検証プログラムに沿って実施する。

VII. 外部検証のための人材育成

文部科学省のナショナルバイオリソースプロジェクト「外部検証推進のための人材の育成と活用」課題を推進する。

VIII. 関連学協会等との連携

- (1) 日本学術会議、生物科学学会連合及び動物実験関係者連絡協議会の活動に協力する。
- (2) 国内の関連学会・協会との学術・情報交換を進め、その活動に協力する。
- (3) 国際実験動物科学会議（ICLAS）及びアジア実験動物学会連合（AFLAS）における活動を継続する。
- (4) 第74回日本実験動物学会総会を第61回日本実験動物技術者協会総会および2027年AFLAS総会（11th AFLAS Congress 2027）と国内で同時開催するための準備を進める。2026年中にAFLAS Council meetingを開催（主催）する。
- (5) 韓国実験動物学会（KALAS）など、海外関連学協会との学術・情報交流を推進する。
- (6) 公益財団法人実中研 ICLAS モニタリングセンターや日本動物実験代替法評価センター（JaCVAM）の活動に協力する。

IX. その他

- (1) 第73回日本実験動物学会総会期間中に学会及び委員会主催のシンポジウムおよびセミナー等を開催する（学術集会委員会、実験動物感染症対策委員会、教育研修委員会）。また、関連学協会との円卓会議を実施する。
- (2) 令和8年度維持会員懇談会を開催する（財務特別委員会）。
- (3) 第14回実験動物科学シンポジウムを開催する（学術集会委員会）。
- (4) 実験動物管理者等研修会を開催する（実験動物管理者研修制度委員会）。
- (5) 外部検証専門員講習会を開催する（人材育成委員会）。
- (6) 動物実験の外部検証実施準備に向けた説明会を開催する（人材育成委員会）。
- (7) 動物実験や動物福祉・倫理を啓発するポスターを作成・配布する（動物福祉・倫理委員会）。

以上